

## 編集後記

この度、鈴木則宏編集委員長のもと、本誌編集委員の一人として新たに加えていただきました。どうぞよろしくお願ひします。そこで、若い神経内科医の皆様へ一言お伝えしたいことがあります。英文誌に症例報告を投稿してもなかなか accept されなくなってきました。即 reject された場合には、まるで人格までも否定されたかの如く落ち込んでしまうこともあります。過去にはまだ報告されていないと思ひ PubMed で調べてみると、大抵は類似例が既に報告されており、多忙な日常診療の中で新しい疾患を見つけることは容易ではありません。新規の遺伝子変異や抗体でも検出されない限り英文誌に掲載することは難しいのかも知れません。しかし、神経内科疾患では、疾患名こそついているものの、病態が殆どわかっていない疾患が多数あります。既成概念にとらわれることなく病態に目を向け、「何か、どこか違う気がする。この病態をどう考えたらいいのか、現在提唱されている仮説は本当に正しいのか。」と常に疑問を持ちながら考察し、診た事実を論文としてまとめることが重要です。

2012年に日本神経学会から臨床神経学の英文兄弟誌として Neurology & Clinical Neuroscience (NCN) が創刊されたことはご存じと思います。本誌でも NCN でも構いませ

ん、是非論文報告しましょう。「たかが症例、されど症例」、神経地方会の発表で終わるのではなく、将来につながる第1報になるかも知れません。“IF”が重視されており、英文誌に投稿することは重要です。しかし、本誌は既に“PubMed/MEDLINE”に認証されている学会機関誌です。一旦掲載されれば、即 on-line で自分の考えを世界に示すことができます。本誌は、2015年1月からは完全電子ジャーナル化されることが決定しており、すべて一般公開されます。

論文を書くことにはどんな意味があるでしょうか。やはり、診たものを残す、自分のわずかな経験でも役に立ててもらい、人が気づいていない事実を最初に報告し世に知らせる。さらには英語で書く努力し自己啓発するなど、様々な意味があります。また、症例報告には患者さんへの感謝の意を示す意味もあります。「たとえ治すことができなくても、同じような病気で困っている方のために私を使っ下さい。」と率直な気持ちを言ったださる患者さんもいます。我々はそれに答えねばなりません。人から教えてもらうのではなく自ら学び、それを後生に伝える、その手段の一つとして本誌を利用して欲しいと思ひます。皆様からの投稿をお待ちししております。

(飯塚 高浩)

## 〈編集委員〉

編集委員長 鈴木 則宏 編集副委員長 河村 満  
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡  
 瀧山 嘉久 西野 一三 野村 恭一 星野 晴彦  
 編集委員(幹事兼任) 園生 雅弘 高尾 昌樹 森 秀生

「臨床神経学」 第53巻 第9号 平成25年9月1日発行  
 編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会  
 発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 水澤 英洋  
 印刷所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル  
 日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>